

## 上越に縁のある「看護界の先駆者 大関和」

著者	堀 良子
雑誌名	NICかわらばん
巻	377
発行年	2009-06-06
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10631/791">http://hdl.handle.net/10631/791</a>

# 看護大通信

57



新潟県立看護大学  
看護技術学教授

堀 良子

わが国において正規の看護教育が始まったのは、明治18年有志共立東京病院看護婦教育所（慈恵医大看護学科の前身）からであった。大関 和は、翌年設立され

## 上越に縁のある「看護界の先駆者大関和」

護婦は医師のお手伝い的存在が一般的であった時代に

る高田女学校に生徒取締り兼伝道師として、明治23年11月に赴任した。高田において彼女は、キリスト教婦人矯風会の幹事として、廢娼運動の先頭に立つなど第一線の社会運動家でもあった。また、第一医院時代の同僚であ

る高田女学校に生徒取締り兼伝道師として、明治23年11月に赴任した。高田において彼女は、キリスト教婦人矯風会の幹事として、廢娼運動の先頭に立つなど第一線の社会運動家でもあった。また、第一医院時代の同僚であ

大関が著した看護技術の書である『実地看護法』の復刻版を読むと、その序に「病者の看護を司る者は、肉体の苦痛をのがれしむると同時に、靈の救済をも努めねばなりません。人は心によりて生き靈は肉によりて生きながらうものであります。されば看護婦の職分たるやその責任は実に重大であります」とあり、看護婦は医師のお手伝い的存在が一般的であった時代に

して、英国人アグネス・ヴェッチからナイチンゲール方式の看護教育を受けた日本最初の看護婦の一人である。大関は卒業

つた瀨尾医学士と道ではつたり出会うという機縁があり、彼の帰郷開業した知命堂病院を婦長として助けることになった。

して位置づけられていた。大関はまた、看護婦という職業を社会的に認知させようと、看護婦規則の制定を求める運動や職能団体の結成にも貢献した。

あつて、ナイチンゲールが伝えた看護の独自性と専門性を追求し実践しようとしていたことが伺われる。

後医科大学第一医院（東大病院の前身）の外科婦長として2年勤めた後、桜井女学校の姉妹校であ

の望みで付設された産婆看護婦養成所の実地指導にもあたった。明治29年

の望みで付設された産婆看護婦養成所の実地指導にもあたった。明治29年



晩年の大関和